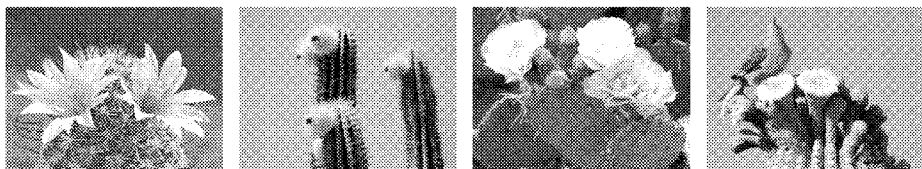


いのち
苛酷な自然にあっても、生命は花を咲かせます。



私たちは、生命の不思議を見逃しません。

キッセイ薬品は、世界の人々の健康のため、
さまざまな分野の新薬の研究・開発に、
とり組んでまいります。

KISSEI

キッセイ薬品工業株式会社

本社 〒399-8710 長野県松本市野沢10番48号
東京本社 〒100-0002 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号キッセイ日本橋ビル
〒112-0002 東京都文京区小石川3丁目1番3号キッセイ小石川ビル
U R L: http://www.kissei.co.jp/

シェーグレン症候群とドライマウス、前立腺肥大症と排尿障害などについて分かりやすい情報をウェブサイト上で提供しています。

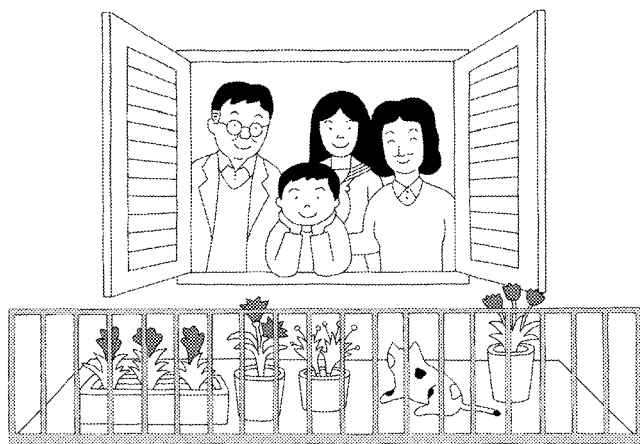
キッセイ健康劇場

検索

人生は長い。だからこそ考えたいのは

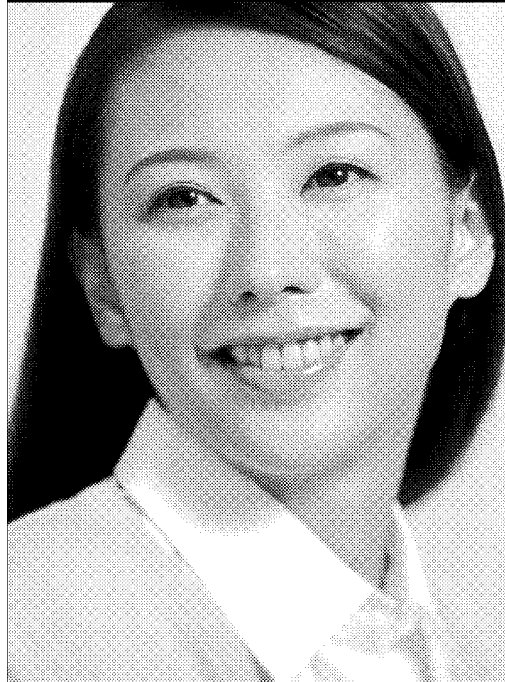
健康寿命。

日本新薬は、一人ひとりの命のために、健康寿命が延びる、そんな未来のために、新しい薬を創っています。



健康未来 創ります
日本新薬
NIPPON SHINYAKU CO., LTD.
http://www.nippon-shinyaku.co.jp

「子宮内膜症」治療に新たな選択肢を



ご存じですか？ いま、「子宮内膜症」は治療の選択肢が拡がり、「子宮内膜症」による月経痛などの痛みを緩和させる薬のほか、病巣に直接作用し、症状を軽減させる薬などがあります。発症すると、閉経まで長い期間つきあっていく「子宮内膜症」。仕事・結婚・妊娠・出産・育児など、あなたのライフステージや生活スタイルに合わせて、医師とともに最適な治療方法を選びましょう。

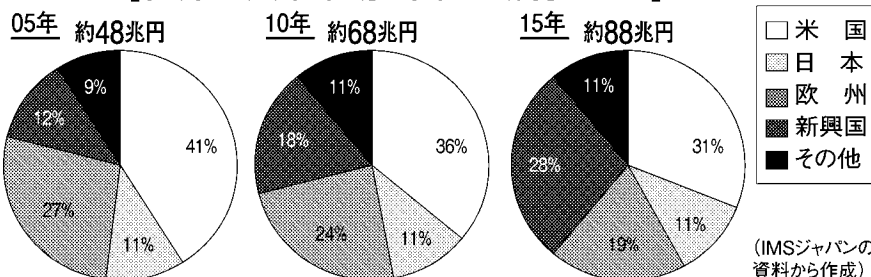
持田製薬では、「子宮内膜症」をはじめ「産婦人科」領域の疾患において、独創的な新薬の研究開発に真摯に取り組む。医師や患者さんに新たな治療の選択肢を提供しています。私たちはこれからも社は「先見的独創と研究」を掲げ、医療の発展に貢献してまいります。

持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
電話(03)3358-7211(代) 〒160-8515

挑戦を続ける

製薬産業

【世界の製薬市場と国・地域別シェア】



これからの15年までの製薬市場の動きです。大きな動きは、世界第1位の巨大市場である米国と第2位の日本本場の成長鈍化、IMSシヤパンの調査によると、05年、日11%、15年には市場が約88兆円のうち米31%、日11%となり、日米欧で05年に79%あったシェアが、15年には61%に低下する。こうした影響を受け、製薬市場全体の伸び率も鈍化している。

世界の動きと日本の動き

世界的に製薬企業のあり方が変わってきている。これまで製薬市場の中心だった日米欧の成長が鈍化、代わってBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）などの新興国が市場の牽引役になってきた。また、年間1000億円以上を売り上げる大型薬（ブロックバスター）が相次いで特許切れを迎え、後発医薬品の登場により収益が減少している。こうした動きの中、国内外の製薬企業は新興国攻めや創薬ターゲットの絞り込みなど、大幅な戦略転換を進めている。

新興国が市場を牽引
日米欧、大幅な戦略転換へ

IMSシヤパンのアラン・トーマス営業部門ファーマセグメンテーションディレクターによると、米国では経済状況の悪化に伴う薬の使用量の減少があり、日本は薬価の引き下げによる医療費の圧迫がある。米国は保険被加入者が経済的な負担をまかなえずに、服用期間を空けてしまったり処方を受けとされ、先進国への影響が

ないケースもあるという。加えて、大きいのが後発医薬品の拡大だ。10年から15年までの6年間で大型薬の特許が次々と切れ、市場成長に対し約9兆6000億円のマイナス効果がある。これに対し、先進国への影響が

大きい。だが、これを補うのが後発医薬品。今後6年間で後発医薬品市場はプラス約4兆円、全体で約40兆円の市場に成長すると見られている。新興国の市場成長と合わせ、製薬市場の成長を維持する要因となるとされる。成長率は鈍化しつつも、14年には約80兆円を突破すると見られる。

新興国の伸びも大きい。製薬市場における主要な新興国のシェアは10年の約2割から15年には約3割まで高まり、約12兆円の金額的な成長を遂げると予測される。新興国の成長拡大を受け、国内の製薬企業も戦略の転換を進めてきた。創薬では、現在有効な治療薬がないために創薬の実現が期待されることを指す「アンメットメディカルニーズ」の高い領域に軸足を置く。がんはもちろんだが、中枢神経系と呼ばれるリウマチや認知症、免疫系、生活習慣病、難治性疾患などの創薬に力を注いでいる。創薬候補を実用化する臨床試験などのステップ・バイ・ステップの数を増やし、領域ごとに存在感を示そうという考えだ。技術や創薬のシーズに欠けている場合、リソースを持つベンチャー企業へM&A（合併・買収）を仕掛けることも厭わない。現在、各社がバイファイリンを整えつつ、攻勢のタイミングを計っている。今後、は特許切れの際にマイナ

革新的な医薬品の創出



め、優れた新薬をより早く継続的に創出することを可能とする仕組みです。喫緊の課題である承認・適応外薬の開発要望に対し、製薬企業は真摯に対応しており、11年3月末において未着手のものはゼロになりました。当加算が各社の対応を後押ししていることは明らかであり、次期薬価制度改革においてルールとして恒久化されるよう、引き続き取り組んでいきます。

研究開発型製薬企業の使命

シオン推進室の活動に大きな期待を寄せています。さらに、研究開発投資を支える基盤整備について、米国やアジア新興国の施策も踏まえ、フランクに議論するために、「政策対話」を開催したいと考えています。

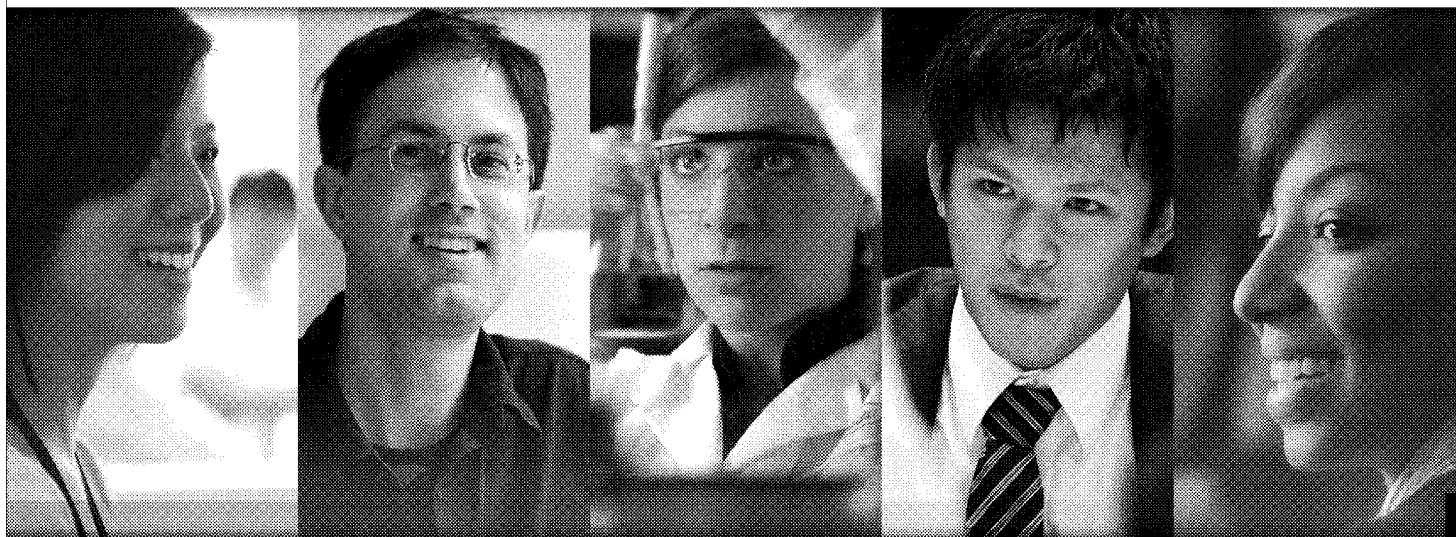
まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。
世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。
明日を変える一錠を創る。
アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。

astellas
Leading Light for Life
アステラス製薬

www.astellas.com/jp/



世界中の「いのち」のために、タケダの挑戦はつづく。

創業から230年。タケダはいつの時代も、かけがえのない「いのち」と正面から向き合ってきました。一日でも早く医療の現場、患者さんのもとへ画期的な新薬を。それが私たちのずっと変わらぬ使命です。

さらなる情熱と決意とともに、これからタケダはもっと世界へ。全ての社員のチカラをひとつに、より多くの人々に優れた医薬品を届けていきます。世界中の健やかな明日と、医療の未来に貢献するために。

タケダの挑戦に終わりはありません。

www.takeda.co.jp

武田薬品工業株式会社